

講師リレー連載 第5回

はりきゅう実技担当 清藤鍼灸院院長

清藤 直人 先生



人生とはわからないものだ。鍼灸師になれる地盤があり、そのレールも引かれているにもかかわらず、私はそのレールに乗るのがいやだった。最初の岐路は、鍼灸師にならず芸能の道を選んだことではないだろうか。

22歳のころ、関東のある芸能学院に見いだされ、お笑いをやらないかと誘われた。「笑いを極めるなら関東ではなく関西だろう」と、これまた引かれたレールを蹴り、笑いの名門、吉本総合芸能学院(NSC)の入学試験を受けた。通常、志望者は1500~1600人といわれているが、この時代はもっとも志望者が多く、私の時は3000人を超した。「さすがに受かるはずない」と思っていたら、なんと! 合格率99.9%といわれるとおり全員合格した。現実は辛辣なもので、のちに語り継がれることとなる不作の12期生となってしまった。同期は、2丁拳銃・COWCOW・小籔千豊・コカドケンタロウ(ロッチ)など(ファンの方ゴメンなさいネ)である。島田紳助はこう語る。「ライバルのできがいいと、競い合ってレベルが上がる。しかしできの悪い年は不作の時代となる。」ちなみに、11期には陣内智則・中川家・たむらけんじ・ケンドーコバヤシ。13期には次長課長・ブラックマヨネーズ・徳井義実…。みなまでいわなくても、頭のいい学生ならなにがいいたいか得心してもらえると思う。鍼灸学校も同じだということを。

ごぞんじのとおり、漫才にはボケとツッコミの役割がある。ツッコミはふつうの価値観や、常識的な見方をしていく。それに対してボケはあえてはずす。つまり、別の側面から見たり、非常識な考え方をぶつけ、意外な視点にもっていく。常軌を逸することでおもしろさが生まれてくる。この理論をメタファーすると、鍼灸にも役立つのではないかと私は思う。臨床でうまくいかないのは、それは一枚岩的な考えをしてしまうからだ。自分 1 人、あるいはカンファレンスでボケ・ツッコミをやってみると意外と突破口が開けたりするかもしれない。今の医療界はツッコミばかりがまかりとおり、あたりまえのことが生真面目に語られすぎている。クレームを恐れてあたりさわりのない意見がならび、業界にも柔軟性がない。だから窮屈で、だれもが閉塞感を抱くのではないだろうか。本音をいってみる、笑われるかもしれないフレキシブルな提案をしてみる。そこから空気の流れが変わり、思わぬ効果がでるかもしれない。

私の時代は不作でしたが、無用の用になっている気がする。あの苦い 2 丁目劇場・三角公園でのできごと、今もその経験が臨床現場でおおいに役立っていると感じる。活躍している芸人ですら、10 年、15 年のトレーニングや経験を積みあの場にいる。この世界も 3 年、5 年、10 年とまじめに研鑚を積めば生き残っていけるはずである。臨床力は、技術と人間性、その両輪があって伸びるものだと、私は思う。

北の国から 2010

鍼灸師学科3年生担任 山口降平

去年の冬は雪がないと嘆いていましたが、今年は雪降りすぎです。雪の影響で、 最寄りの駅からふつうであれば1時間程度で実家に着くのですが、今回は2時間。 大阪からの移動時間はトータルで10時間。北海道は遠いです。

北海道に帰ってくると、住んでたころには気づかなかった北海道特有の冬事情があるのに気づきます。たとえば 道路の標識。写真の標識を見たことがありますか? なにかというと路肩標識です。雪で路面が覆われてどこまで が道路か解らなくなり転落するのを防ぐための標識になります。さらに、各家庭には灯油タンクなるものがあり、 ストーブにはタンクから直接灯油が送り込まれています。うちの実家は10月頃からストーブをつけはじめ、6月初 旬あたりまでストーブがついてます。

そのほかに、雪国の車事情をごぞんじでしょうか。車の冬支度は 11 月あたりからはじまります。タイヤを冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) にかえ、さらにワイパーも変更します。雪様ワイパー (スノーブレイド) というのがあるんです。通常のワイパーにゴムが被覆されているものになります。雪や氷をどかすのに優れています。ワイパーは屋外に駐車するときは根元から跳ね上げておかないといけません。そのままにして置くとワイパーとフロントガラスが凍ってくっついてしまうからです。写真のようにみんな立てます。

こんな感じで北海道には独特の冬事情が存在しています。冬の北海道を旅行する時は車のワイパー見てみてください。太いですよ。







方言辞典

ペったらこい: 平ら かっぱがえす: ひっくり返す

めっぱ:ものもらい めんこい:かわいい わや:めちゃくちゃ はねる:ビックリする

なんも:別に・全然きにしなくてい

いいよ

なした?:どうした?